

令和7年12月19日

海外研修視察報告書

長崎県議会議長 外間 雅広 様

長崎県議会議員 溝口 芙美雄

// 中村 一三

// 石本 政弘

下記のとおり海外研修視察を実施しましたので、報告いたします。

記

1	日 程	令和7(2025)年11月12日(水)～11月19日(水)
2	訪 問 国	イタリア共和国、バチカン市国
3	調査目的	令和10(2028)年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコ世界文化遺産登録10周年を迎えることから、今後のインバウンド獲得に向けた可能性等の現地調査を行うもの。
4	調査事項	在イタリア日本国大使館、在バチカン日本国大使館、日本政府観光局ローマ事務所、国際交流基金ローマ日本文化会館、ローマ教皇庁文化教育省、本県とゆかりのあるジェズ教会、サンタ・マリア・デッロルト教会ほかを訪問し、今後のインバウンド獲得に向けた可能性等のヒアリング、本県ゆかりの関係施設の状況把握等の調査を実施する。
5	調査結果	別添のとおり
6	調査により得られた成果及び県政への反映方策 (概 要)	<p>今回訪問した関係機関は、いずれも本県の取組について理解を示していただき、今後の支援・協力の言葉が得られたほか、今後の連携に関する言葉も得られた。来年が日伊国交樹立160周年にあたり、イタリア大使館としてもしっかりと取り組んでいきたい旨の意向が示された。</p> <p>この機会を契機に、天正遣欧少年使節及び長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産等を活かしたイタリアからのインバウンド拡大等の取組について、今後の一般質問や委員会において執行部に提案していく。</p>

■Ⅰ 在イタリア日本国大使館 訪問

(1) 日 時:令和7年11月14日(金)午前

(2) 場 所:在イタリア日本国大使館 [イタリア・ローマ]

(3) 相 手:在イタリア日本国大使館 次席公使 林 裕二郎
在イタリア日本国大使館 一等書記官 山下 隆道

(4) 情報・意見交換の概要

○ここイタリアにおける日本に対する関心は非常に高い。

日本の伝統文化、アニメに関心を持つ世代が増えている。

若者の中には、アニメのコスプレを行って集まる、お祭りをするといったいろいろな形での興味の持ち方を持っている。

○昨年2024年日本を訪れたイタリア人は23万人泊である。

イタリア人が日本のどこに行くのか調査したところ、延べ宿泊者数基準で、その9割が東京、京都、大阪、石川、広島という5つの都府県がある。石川県は金沢に関心が高い。長崎県は、キリスト教という観点で、関心を持たれる要素がある。

○バチカン市国はイタリアの中に位置しており、カトリックの総本山である。

今年は、聖年の年であり、巡礼者がローマにやってくる。ヨーロッパはもちろん、ヨーロッパ以外の中南米、フィリピン、アフリカからも巡礼者が訪れる。

全世界には、約14億人のカトリック教徒がおり、聖地ローマに行きたいということで当地を訪れている。

○ローマ市内の教会については、日本とのゆかりがある教会もあり、イエズス会の日本との関係がある教会においても、土産コーナーやザビエルの絵葉書などが販売されており、日本との関係も紹介されている。

○長崎県南島原市とイタリア・キエーティ市との交流も行われている。自治体レベルのこのような交流、顔の見える関係が、親しみ深く深いお付き合いになると思う。

○来年2026年は日伊国交樹立160周年の年であり、大使館としてもしっかりと取り組むたいと考えている旨の発言があった。

(5) 所 感

- イタリア人は、日本に対する関心が高く、また、東京、京都、大阪のほか、石川（金沢）、広島に対して特に関心が高いこと、長崎はキリスト教という観点で関心を持たれる要素があること。
- 来年2026年の日伊国交樹立160周年の事業について検討していることなどの話があったが、今後、天正遣欧少年使節や長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を活かした本県と同館の日伊国交樹立160周年事業などでの連携・インバウンド誘客が考えられる。



■2 日本政府観光局（JNTO）ローマ事務所 訪問

(1) 日 時：令和7年11月14日（金）午前

(2) 場 所：日本政府観光局（JNTO）ローマ事務所〔イタリア・ローマ〕

(3) 相 手：日本政府観光局ローマ事務所長 豊田 健
日本政府観光局ローマ事務所次長 朝霧 琴絵

(4) 情報・意見交換の概要

- 当事務所のプロモーションは、先月10月、日本側とイタリア側とをつなぐオンラインでのBtoBの取組を実施したところである。アニメ関連の取組も実施している。
- 昨年、訪日したイタリア人は約23万人となっており、2023年を超えた。
訪日先は東京、京都、大阪のゴールデンルートのほか、石川県金沢市、飛騨高山の岐阜県高山市、広島県が人気の旅行先となっている。その理由は金沢市、高山市の両市はインバウンドに以前から熱心に取り組んでいる。特に高山市は、イタリア語のパンフレットを制作しており、欧州からの旅行者が多い。
- 訪日するイタリア人の70%以上が初訪日であり、既にゴールデンルートを訪れたイタリア人の九州への旅行需要はある。交通手段の利便性と、長崎県ならではの魅力をアピールすることが重要。
但し、イタリアから日本へは直行便が非常に少なく、韓国、台湾、香港の航空会社など福岡空港に直行便があり、福岡を経由して長崎県へ来てもらうと良い。
- 来年2026年（11月下旬）に、イタリア・シチリア島の州都パレルモにて、第51回ジャパンウィーク2026年が開催される。当地の旅行見本市への出展を通じて、長崎県のアピールや長崎県の観光事業者を紹介するということも一案と思う。
また、フード関連のイベントもあり、長崎カステラや農産加工品、県産品等を絡めての取組もあり得るか考える。
- イタリアでは、ハネムーンの旅行先として、日本が定着しており、ハネムーンを良いものにしたいという文化がある。日本への旅行者は食、歴史、文化など総合的に体験したいという方も多い。
- 温泉、桜、紅葉、海鮮などは、日本のどこでも同様に触れることができるコンテンツであり、差別化が重要である。春の桜、秋の紅葉は日本のどこでも同じであり、逆に別の季節を提案することも大事である。イタリアにおいては、夏の8月が旅行シ

ーズンである。

○そこで、イタリア語による簡便な長崎県の紹介パンフレットを作成し、ご提供いただけると事務所に設置しPRできる。イタリア語によるパンフレットがあれば、訪日するインバウンド数にも大きな影響があると思う。

○イタリアではアグリ・ツーリズムが盛んで農泊も人気があり、日本を旅行して農泊を楽しんでいる。

そこで、この農泊ではこういう体験ができる、こんな交流ができるなど、具体的にご紹介いただければ長崎県へのインバウンド客も増えると思う。

○長崎県の紹介パンフレットなど、事務所での設置・提供は可能である。

(5) 所 感

○訪日イタリア人旅行者の70%以上は初訪日であり、まず、東京、京都、大阪といったゴールデンルートを訪問するが、石川県金沢市、岐阜県高山市、広島県は人気の旅行先となっている。交通アクセスに関する PR が重要であること。また、韓国・台湾等のハブ空港活用した九州・長崎へのインバウンド誘客についても検討する必要がある。

○2026年11月下旬にイタリア・シチリア島パレルモでのジャパンウィークが開催される。長崎和牛や本県水産加工品等のなどの出品を兼ねた当イベントへの参加も検討する必要あり。

○今後、天正遣欧少年使節や長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を活かした旅行博への出展や関係資料の同事務所設置などにより、より一層の連携・誘客が考えられる。



■3 在バチカン日本国大使館 訪問

(1) 日 時: 令和7年11月14日(金) 午後

(2) 場 所: 在バチカン日本国大使館 [イタリア・ローマ]

(3) 相 手: 在バチカン日本国大使館参事官 萩野 敦年
在バチカン日本国大使館一等書記官 持丸 史恵

(4) 情報・意見交換の概要

- 長崎県と言えば、カトリック界では日本の有名な都市であり、訪れたい街の一つとなっている。日本へのインバウンドは増加傾向にある。
- 天草の漫画家である高浜寛氏の取組は、布教の歴史、鹿児島～熊本～南島原～長崎へと続く、巡礼の道の取組である。
世界には、14億人のカトリック教徒がおり、アフリカ、日本の隣国(韓国)、ベトナム、フィリピンにもカトリック教徒が多い。
- 長崎県自体は、カトリック関連のゆかりの地や潜伏キリシタン関連遺産も多く、原爆の歴史もある。永井隆博士はイタリアでも有名である。
先月10月、当館主催で、『長崎、閃光の影(松本准平監督)』を上映した。
2年前(2023年11月)も、映画『いのり(松村克弥監督)』の上映会をバチカンにて開催した。
- 南島原市をはじめとした8市町で、天正遣欧少年使節ゆかりの会が組織されており、3年に一度バチカン市国に訪問団を派遣している。
- 外国から100%呼ぶのではなく、日本国内に住んでいる人や東京、京都、大阪まで来ている人をいかに長崎県に呼び込む方法もあると考える。
- バチカン市国にはカトリック系のオンライン新聞社など複数社ある。
バチカンニュースは、オンラインとラジオのみでの発信である。
先日の講演会では、当館がプレスリリースを出したが反響が凄かった。すぐに英語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語等の5言語で世界中に情報発信され、南米の果ての教会からも反応があった。
- バチカン市国等の新聞社の取材を受け、長崎県のゆかりの地など取材した結果をPRしてもらえば、効果があるのではないかと考える。
長崎県の関係情報を翻訳し、東京や大阪にある県のアンテナショップなどに設置すると良いかと思う。

- こちらでは、日本の潜伏キリシタンの歴史については、大変大事に思われており、関係者の関心が大変高い。ピンポイントでも構わないので、日本の潜伏キリシタンが取り上げられるよう、上手にメディアと連携できると良いと考える。
- また、日本には、布教、禁教、磔などの殉教の歴史があり、26聖人は、内20人が日本人、6人が外国人、中には聖人もいた。これらの点も非常に重要である。
- 隠れキリシタンという独特の文化を知ってもらうことが大事であり、信徒発見も非常に重要である。バチカンでは、信仰を守ったと見られている。
- 天正遣欧少年使節来訪時は、大歓迎され、公文書や絵等の記録が残っている。街の歴史として、知られている。今年は、天正遣欧少年使節団の教皇グレゴリウス13世謁見440周年の年。トスカーナ州のルッカでは、数年前から大司教が研究グループを立ち上げ、関連の取組を行っている。
- 天正遣欧少年使節は、イタリアという国が文書を残すという文化があることも影響し、イタリアの各都市で国交や司教区の文書が残っており、今年、天正遣欧少年使節の資料集『TENSHO天正』が初めてできた。
- 2023年には、ルッカの取組による論文が発表されたところである。
- 遠藤周作さんの小説『沈黙』、同小説を描いた映画『サイレンス』も素晴らしい。

(5) 所 感

- 長崎と言えば、イタリア・バチカンのカトリック界では日本の有名な都市であること、『長崎、閃光の影（松本准平監督）』の上映会を実施したこと、東京、京都、大阪まで来ている人をいかに本県に呼び込むのが大事であること、今年、天正遣欧少年使節の資料集が初めて発刊されたこと、カトリック系のオンライン新聞社など複数社との連携可能性があることなどの話があったが、今後、同館と連携した講演会やカトリック関係メディアと連携した取組による誘客が考えられる。



■4 ローマ教皇庁文化教育省 訪問

(1) 日 時:令和7年11月17日(月)午前

(2) 場 所:ローマ教皇庁文化教育省 [イタリア・ローマ]

(3) 相 手:ローマ教皇庁文化教育省

長官・枢機卿 ジョゼ・トレンティーノ・デ・メンドンサ ほか

(4) 情報・意見交換の概要

○今回は、このような機会を得ることができ嬉しく思う。

前田枢機卿は素晴らしい枢機卿であり、日本の素晴らしさを伝えてくださっている。今回の交流を非常に大切に思っており、この出会いは友情の延長であり、過去からの歴史が未来へとつながっている大きな出会いである。

歴史の長さを大切に感じており、皆さんと文化をつなぐことが非常に大事であり、皆さんのお役に立てるように最大の努力をしていきたい。

○世界遺産への登録については、非常に難しいことであり、責任と努力の結果であり、大変素晴らしいものと理解している。取組に感謝する。

時間を要しても巡礼の道の実現をというお考え、素晴らしいお考えである。嬉しく思う。熱意がどれぐらいのものかが、影響していく。

○長崎は日本で最も美しい都市だと思っている。

長崎には原爆という傷付いた歴史もあるが、長崎とは文化交流を行っており、素晴らしい歴史を持っている。

長崎の方にとって、素晴らしいものを残すための最大の協力をしたい。

(5) 所 感

○過去にあったことを大事に残し、未来につなげることが大事なことで、長崎は日本で最も美しい都市だと思っていること、世界遺産への登録は非常に難しく、責任と努力の結果であり、大変素晴らしいものであること、長崎とは文化交流を行っており、素晴らしい歴史を持っていること、長崎の方にとって、素晴らしいものを残すための最大の協力の意思があることなどの話があった。

○今後の本県の天正遣欧少年使節及び長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の取組やイタリアからのキリスト教信者のインバウンドの拡大に関して、引き続き、同省のご理解とご支援をいただく必要がある。



■5 国際交流基金ローマ日本文化会館 訪問

(1) 日 時:令和7年11月17日(月)午前

(2) 場 所:国際交流基金ローマ日本文化会館 [イタリア・ローマ]

(3) 相 手:国際交流基金ローマ日本文化会館 館 長 清水 順一
国際交流基金ローマ日本文化会館 事務局長 朝賀 美織
国際交流基金ローマ日本文化会館 運営専門員 鹿室 歩美

(4) 情報・意見交換の概要

[同館視察時]

○この建物は、1962年の建築で、日本政府がつくった。

単独の日本文化センターとしては、最古のものである。

○国際交流基金は、外務省所管の独立行政法人であり、日本政府の活動、日本文化の紹介、日本語教育サポートに取り組んでいる。

当館は、平日は、一般開放しており、講堂(定員150~160名)、展示ホール、図書館(4万冊所蔵)の3つの施設を有している。

このほか、庭園を有しているが、庭園がある日本文化センターは当館のみである。

○当館では、展示会も開催しており、年に4つの展示会を民間企業や自治体と連携しながら開催している。現在、食の広告というテーマで展示会を開催しているところである。

○当館の図書館利用は、イタリア人の学生が主であり、日本語専攻者が多い。

ローマ大学は、1年生に500人もの日本語学科・日本関係学科の学生がおり、全ての学年と大学院を合わせると数千人が日本に関することを学んでいる。





〔意見交換時〕

○当館では、日本政府観光局（JNTO）と連携した取組も行っている。

当館1階のモニターでは、JNTO制作の日本観光のプロモーション映像を流している。また、イベントの際はJNTOと連携し、来県者にパンフレットを配布しており、同じ日本チームとして、連携して取り組んでいる。

○昨年2024年秋は、当館展示ホールにおいて、日本の世界遺産に関する写真展を開催した。長崎県の世界遺産も含まれていた。

○長崎県南島原市とキエーティ市の交流取組について、イタリア・キエーティ市は、イタリア人宣教師バリニャーノ神父の出身地であり、両市の提携関係により交流が行われているが、先月、和食の展示品をお貸しして、キエーティ市で展示会が開催された。

当館において、姉妹都市交流をされている案件に対して、連携することは可能である。

○当館は、日本文化の紹介という切り口で取り組んでいるが、最近では、インバウンドの関心が高まっており、インバウンドと文化交流とは相互の関係が深いため、日本文化紹介でありながら、インバウンド・コンテンツであれば、当館でも対応可能である。

○例えば、長崎県の地方文化に関する映像のモニター上映や広報資料・パンフレットの配布も可能である。長崎県の魅力を伝えるものについては、伝統文化に限らず、今を伝えるものでも良い。

○イタリア人の日本への関心については、古いものと新しいものがあるが一概に日本に対する関心が強い。

- イタリア人のマルコ・ポーロは、700～800年前の欧州の中でも、日本式をもたらした。当時イタリアは、ルネッサンス、欧州のトップ先進国だった。ヨーロッパの東洋学の先進国でもあった。
- 現在のイタリアの大学における日本専攻者の多さ、日本研究の規模が大きさについても、日本に対する関心の強さの表れであると考えている。
東洋学、日本の伝統文化や宗教、異文化としての日本、人文系、哲学、美術、伝統的な日本に対する関心強く、また、現代では、日本のPOPカルチャー、漫画、アニメーションを中心に、ゲームにもイタリアの若い人は夢中である。Jポップ、映画もしかりである。
- イタリアの日本のアニメを見た世代が、親の世代になっている。これについては、世界中で同時並行の現象でもある。
- イタリアのPOPカルチャーフェスティバルに関して、20年前にフランスのジャパンEXPOで始まり、フランスの若者を30万人以上動員した。各国のファンが、ジャパンEXPOに参加しているが、現在は、イタリアのフェスが一番規模が大きく、ルッカで開催されている。
- ローマ郊外で開催されているローカルフェスは、当館も参加しており、年2回開催されており、4日間の開催で動員数20万人規模である。
- イタリアでは、一度は日本に行きたいという人が非常に多い。日本の小説もしかりであり、純文学だけではなく、推理小説、新刊など、日本に関する関心が広がっている。
- イタリア・バチカン、カトリックの総本山であり、長崎はゆかりがある。先般、熊本県（天草市）出身の漫画家高浜寛氏が、当館で潜伏キリシタンなどをテーマに講演会を行った。手塚治虫マンガ大賞を受賞している。最近の作品として、『ニュクス（ランタン）』〔明治前期の長崎とベル・エポック時代のパリを舞台にしたアンティーク歴史浪漫漫画〕がある。
- 日伊交流は、数十件があるが、現場から当館にご連絡をいただければ、可能な範囲で対応できる。
- 先般は、秋田県大館市と連携して、曲げわっぱ（秋田杉を使用した伝統工芸品）の展覧会を開催した。
- 節目、節目での取組と併せて、少しでも息切れしないような規模での取組も継続すること、両方平行して取り組むことが大事である。普段の日常活動を行いながら、数年に一度のチャンスなどで目立たせる取組ができればと考える。



■ 6 視察結果に関する情報

(1) 期 日：令和7（2025）年11月14日（金）

場 所：サンタ・マリア・デッロルト教会（ローマ）

概 要：○天正遣欧少年使節の中浦ジュリアンが訪問した教会。

○帰国後も信仰を守り殉教した中浦ジュリアンが2008年に列福されたのを記念し、『三牧樺ず子』画伯による肖像画が、高見長崎名誉大司教より寄贈されている。

○長崎県とのゆかりを調査するとともに、イタリアにおけるカトリックの現況を調査するため、現地を視察した。

特記事項：○本県ゆかりの中浦ジュリアンの肖像画ほかを視察した。



- (2) 期 日：令和7年11月15日(土)
- 場 所：サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂(フィレンツェ)
- 概 要：○ドゥオーモ(大聖堂)、サン・ジョヴァンニ洗礼堂、ジョットの鐘楼の三つの建築物で構成。大聖堂は別名「花の聖母マリア大聖堂」とも呼ばれ、巨大なドーム型の屋根が特徴。
- ルネサンス期を代表する建築物であり、フィレンツェの街のシンボルとして世界的に有名で、世界遺産「フィレンツェ歴史地区」の構成遺産。
- 天正遣欧少年使節も訪問しており、世界遺産の文化資源・遺産の保全や世界遺産を活用した観光振興を調査するとともに、イタリアにおけるカトリックの現況を調査するため、現地を視察した。



- (3) 期 日：令和7年11月15日（土）
場 所：ウフィツィ美術館（フィレンツェ）
概 要：○ルネサンス絵画で有名な美術館。
○ボッティチェリ「ヴィーナスの誕生」やレオナルド・
ダ・ヴィンチ「受胎告知」などの作品が展示。世界遺産
「フィレンツェ歴史地区」の構成遺産。世界遺産の文化
資源・遺産の保全や世界遺産を活用した観光振興を調査
するため、現地を視察した。
○訪問には、事前予約が必要であり、個人客や団体客の行
列ができていた。



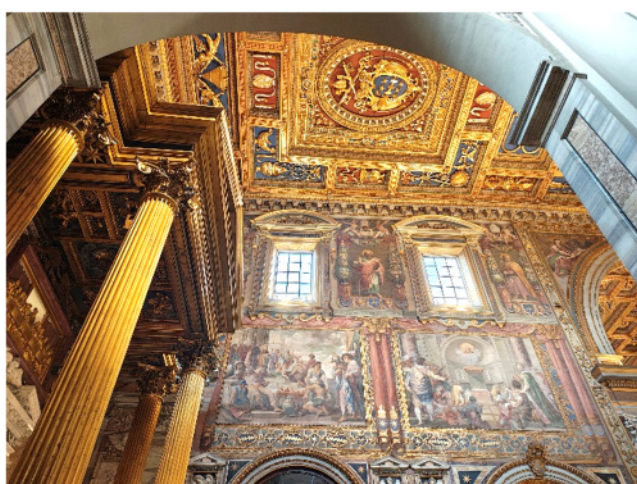
- (4) 期 日：令和7年11月15日（土）
場 所：ヴェッキオ宮殿／ウフィツィ美術館に隣接（フィレンツェ）
概 要：○トスカーナ大公フランチェスコ1世の居城で、1585年3月に天正遣欧少年使節団が招待され宿泊した場所。
（舞踏会に参加、豪華な装飾や美術品に触れた）現在はフィレンツェ市庁舎として使用されている、世界遺産「フィレンツェ歴史地区」の構成遺産の一つ。
○天正遣欧少年使節の歴史・交流の調査及び世界遺産を活用した観光振興を調査するため、現地を視察した。
○訪問には、事前予約が必要となっていた。



- (5) 期 日：令和7年11月16日（日）
場 所：サン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂（ローマ）
概 要：○イタリア・バチカンの4大バシリカ（聖堂）の1つ。
○バシリカとは、建築形式を表す他、教皇によって特別な役割を持った教会堂であると認められたことを意味するが、大バシリカと小バシリカとがあり、前者はローマの四大聖堂にのみ与えられている。
○イタリアにおけるカトリックの現況を調査するため、現地を視察したが、今年2025年は、聖年の年ということで、『聖なる扉』が開かれており、多くの巡礼者が『聖なる扉』を通過していた。
○現地には、世界各地からの巡礼者が訪れていた。
○なお、同大聖堂の敷地内には、記念品ショップが併設されていた。
特記事項：○長崎県の大浦天主堂は、2016年4月、日本で唯一の小バシリカとして、ローマ教皇庁から認定されている。



- (6) 期 日：令和7年11月16日（日）
場 所：サン・ジョバンニ・イン・ラテラノ大聖堂（ローマ）
概 要：○イタリア・バチカンの4大バシリカ（聖堂）の1つ。
○ここでローマ教皇シクストゥス5世の即位式が行われ、
天正遣欧少年使節も賓客として参加。天正遣欧少年使節
の歴史・交流を調査するとともに、イタリアにおけるカ
トリックの現況を調査するため、現地を視察した。
○今年2025年は、聖年の年ということで、『聖なる扉』
が開かれており、多くの巡礼者が『聖なる扉』を通して
いた。
○同大聖堂内には、多言語（イタリア語、フランス語、英
語など）対応の懺悔室が複数設置されていた。



- (7) 期 日：令和7年11月16日（日）
場 所：サンタ・マリア・マッジョーレ教会（ローマ）
概 要：○イタリア・バチカンの4大バシリカ（聖堂）の1つ。
○天正遣欧少年使節が訪問した場所であり、天正遣欧少年使節の歴史・交流を調査するとともに、イタリアにおけるカトリックの現況を調査するため、現地を視察した。
○他の一部の教会でも同様であったが、同教会の中に入るに際しては、バッグなどの所持品のセキュリティチェックが行われていた。



(8) 期 日：令和7年11月16日（日）

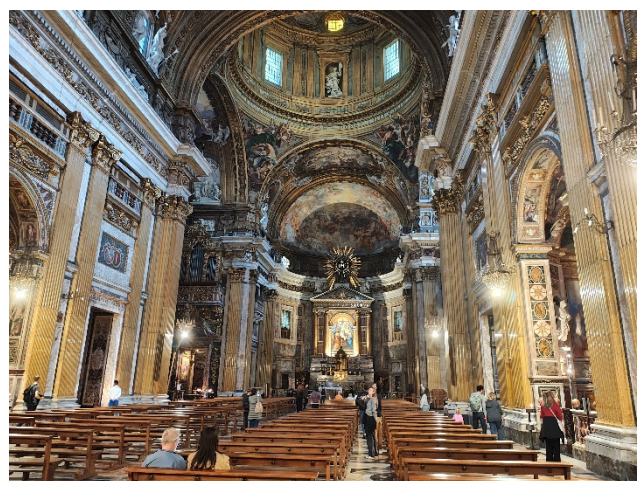
場 所：ジェズ教会（ローマ）

概 要：○イエズス会のかつての本拠地であった教会。

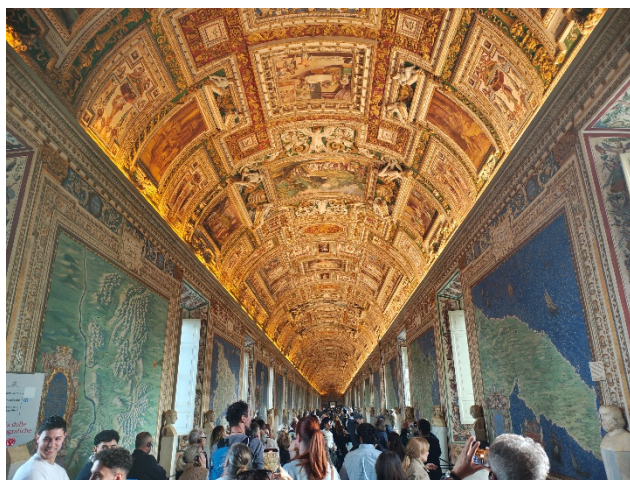
○この教会の中には、1622年の長崎に於いて日本のキリシタン迫害の歴史上最も多くの信徒（カトリックのキリスト教徒55名）が同時に殉教した事件（元和の大殉教）の様子を描いた「元和の大殉教図」ほか関係の絵画3点が所蔵されている。長崎県とのゆかりを調査するため、現地を視察した。

特記事項：○当日は、同教会の代表神父様のお取り計らいにより、上記絵画3点や通常は予約等が必要で拝観することができない部屋及び区域を視察することができた。

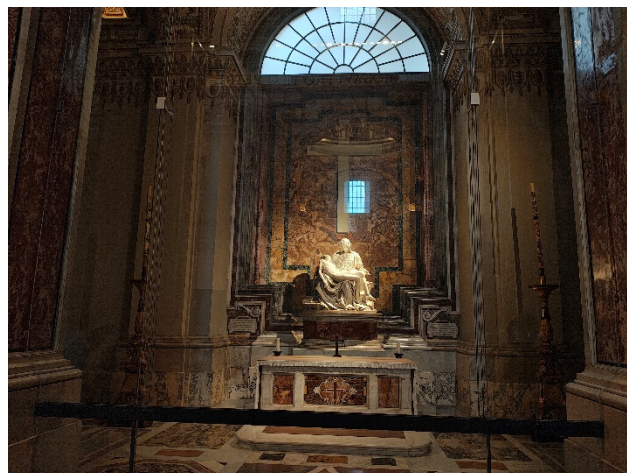
○また、視察の最後の場面では、同代表神父様から溝口県議に対して、上記絵画3点の記念カードの贈呈があった。



- (9) 期 日：令和7年11月17日（月）
場 所：バチカン美術館、システィーナ礼拝堂（バチカン）
概 要：○バチカン美術館には、歴代のローマ教皇が収集した膨大な美術品や文化遺産などが展示されている。
○システィーナ礼拝堂は、次代ローマ教皇選挙会「コンクラベ」の会場としても知られ、祭壇にはミケランジェロの傑作「最後の審判」が描かれている。
○世界遺産の文化資源・遺産の保全や世界遺産を活用した観光振興を調査するとともに、イタリアにおけるカトリックの現況を調査するため、現地を視察した。



- (10) 期 日：令和7年11月17日（月）
場 所：サン・ピエトロ大聖堂（バチカン）
概 要：○バチカン市国南東端にあるカトリック教会の総本山。世界中から何百万人もの巡礼者や観光客が訪れている。
○イタリア・バチカンの4大バシリカ（聖堂）の1つ。
○1585年、新しい教皇シクストゥス5世の戴冠式が行われ、ローマに滞在していた天正遣欧少年使節団も訪問・参列した。
○天正遣欧少年使節の歴史・交流、世界遺産の文化資源・遺産の保全や世界遺産を活用した観光振興を調査するとともに、イタリアにおけるカトリックの現況を調査するため、現地を視察した。
○同大聖堂には、25年聖年の年ということで、『聖なる扉』が開かれ、多くの巡礼者が訪れていた。
○サン・ピエトロ大聖堂に向かう大通りには、聖年の年の巡礼者のための通路がバリケードによって設置されており、世界各国からの巡礼者の姿を見ることができた。



■視察結果の所感（まとめ）

- イタリア・バチカンの各訪問地において、世界中からの旅行者で常に賑わっていた。また、2025年は、25年に1回の聖年の年（※）ということで、イタリア・バチカンには世界各国からの団体での巡礼者ほかが集まっており、サン・ピエトロ大聖堂や各バシリカ、教会、街中などにおいて、多くの巡礼者の行列と遭遇した。
- このほか、前述のとおり、関係の教会においては、天正遣欧少年使節とのゆかりや長崎とのゆかりに関する絵画が所蔵されているなど、イタリア・バチカンと本県との歴史と文化の強い結びつきを感じることができた。そこで、今後の本県における天正遣欧少年使節並びに長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産等に関する更なる取組により、イタリアからのインバウンド誘客に資することができるものとする。

（以 上）

〔参考情報〕

※バチカンで一年を通して行われる最大の祝祭の一つであり、25年ごとに世界中のカトリック教徒に希望と信仰の力を広めるもの。

※バチカンは聖年の中心地であり、世界中のカトリック教徒・巡礼者が訪れる。

※2033年は、キリスト誕生2000年ということで、特別に聖年の年となる予定とのこと。